

IR

第56期第2四半期
営業のご報告

2019年4月1日～9月30日





株式会社 あじか ん あし か が けい い ち
代表取締役社長 **足利 恵一**

株主のみなさまへ

増収の決算をご報告申し上げます

株主のみなさまにおかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。当社グループの第56期第2四半期連結累計期間（2019年4月1日から2019年9月30日まで）の営業の概況および決算等についてご報告申し上げます。

ご高承のとおり、当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、輸出や生産の弱さが続いているものの、雇用・所得環境は改善基調にあり、景気は緩やかに回復いたしました。しかしながら、米中貿易摩擦の長期化や世界景気の減速懸念などにより、金融資本市場が不安定な動きとなるなど、先行き不透明な状況で推移いたしました。

食品業界におきましては、食品の安全・安心への関心が高まる中で、輸入品や原材料価格は安定して推移したものの、個人消費は緩やかな回復に留まっており、一定の厳しさを残した経営環境で推移いたしました。

このような状況の中、当社グループは『強い国内事業の実現』と『新事業の確立』をテーマとした第11次中期経営計画の2年目をスタートさせ、「営業基盤の拡充と市場開拓」、「商品の研究開発と技術開発およびマーケティング力の強化」、「全社供給体制の強化と効率化」、「品質管理の強化」、「利益構造の改善」、「経営品質・企業価値の向上」を重点施策とした取り組みを展開してまいりました。

当第2四半期連結累計期間におきましては、業務用食品分野では、つくば工場の生産品を軸とした新規開拓・深耕拡大への取り組みを強化してまいりました。また、外食業態やペカリー市場など、当社としては新たな業態に向けての販売促進活動にも注力してまいりました。これらの結果、当社主力製品である玉子焼類や味付かんびょう・しいたけ類、蒲鉾類の売上が拡大いたしました。調理済冷凍食品などの自社企画ブランド品、水産物を中心とした仕入商品などの売上は、前年同四半期を若干下回りました。

生産面におきましては、蒲鉾類が好調だったことに加え、つくば工場の稼働率が前年同四半期に比べ大きく上昇し、

生産高はほぼ計画通りとなりました。

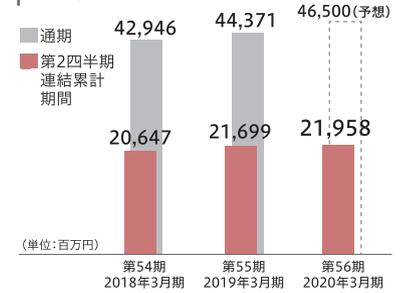
ヘルスフード事業におきましては、主力製品である「国産焙煎ごぼう茶 ごぼうのおかげ」および「つくば山崎農園産 あじかん焙煎ごぼう茶」の2品について、第1四半期連結累計期間から新たに機能性表示食品としての販売を開始いたしました。また、テレビCMや、紙媒体、電子媒体などで焙煎ごぼう茶の販売促進・広告活動を積極的に行いました。しかしながら、前連結会計年度に大きく伸張した新製品の販売実績が一服したこともあり、通信販売の売上は前年同四半期を下回る結果となりました。また、ドラッグストアなどでの市販品の売上も、新規開拓やインスタプロモーションの強化を行いました。前年同四半期実績並みに留まりました。

以上の結果より、当第2四半期連結累計期間の売上高は、21,958百万円（前年同四半期比1.2%増加）となり、前年同四半期実績を上回ることができました。利益面につきましては、売上高の伸張はあったものの、人件費や連結子会社取得に伴う固定費の増加に加え、焙煎ごぼう茶の広告宣伝、営業拠点の整備など、次期成長拡大に繋がる戦略的経費の計上などにより、営業利益は、151百万円（同63.6%減少）となりました。経常利益は、デリバティブの時価評価損などにより、149百万円（同75.1%減少）となり、親会社株主に帰属する四半期純利益は、70百万円（同82.9%減少）となりました。

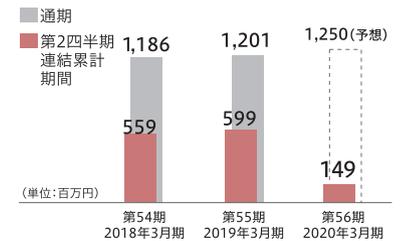
■ 通期業績予想

当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高につきましては、ヘルスフードにおいて新製品の導入効果が一巡したことに加え、業務用食品等において販売・価格競争の激化、自然災害の影響などもあり、当初予想を下回る見込みとなりました。しかしながら、通期の業績予想につきましては、業績に大きな影響を与える第3四半期以降の受注状況や、新製品の導入効果、冬場の原材料価格の動向、為替、株価、原油価格など、先行き不透明で流動的な要素も多いため、2019年5月14日に公表いたしました業績予想を変更しておらず、売上高46,500百万円、経常利益1,250百万円、親会社株主に帰属する当期純利益800百万円を見込んでおります。

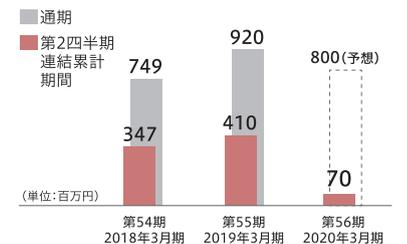
売上高 21,958百万円



経常利益 149百万円



親会社株主に帰属する 当期(四半期)純利益 70百万円



注) 金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

■ 第2四半期 連結貸借対照表

科 目	前連結 会計年度	当第2四半期 連結会計期間
	2019年3月31日現在	2019年9月30日現在
(資産の部)		
流動資産	11,945	※1 11,400
現金及び預金	1,454	1,926
受取手形及び売掛金	6,298	5,267
商品及び製品	2,605	2,332
仕掛品	31	41
原材料及び貯蔵品	1,204	1,456
その他	363	390
貸倒引当金	△ 12	△ 14
固定資産	12,947	※2 13,368
有形固定資産	11,045	11,267
建物及び構築物(純額)	4,025	4,177
機械装置及び運搬具(純額)	2,643	2,633
土地	3,549	3,737
リース資産(純額)	98	110
その他(純額)	727	607
無形固定資産	134	311
ソフトウェア	99	225
リース資産	7	9
のれん	—	74
その他	27	3
投資その他の資産	1,768	1,789
投資有価証券	894	842
長期前払費用	0	0
繰延税金資産	98	134
その他	833	873
貸倒引当金	△ 58	△ 61
資産合計	24,893	24,769

※1 流動資産は、前連結会計年度末に比べ545百万円減少し、11,400百万円となりました。
主な増減要因は、現金及び預金の増加472百万円、原材料及び貯蔵品の増加252百万円、受取手形及び売掛金の減少1,031百万円、商品及び製品の減少273百万円でありです。

※2 固定資産は、前連結会計年度末に比べ421百万円増加し、13,368百万円となりました。
これは、株式会社井口産交子会社化に伴う有形固定資産の増加に加え、無形固定資産において、ソフトウェアが増加したためであります。

※3 流動負債は、前連結会計年度末に比べ351百万円増加し、10,827百万円となりました。
主な増減要因は、短期借入金の増加468百万円、支払手形及び買掛金の増加328百万円、その他に含まれる未払消費税等の減少237百万円、その他に含まれる未払金の減少209百万円でありです。

※4 固定負債は、前連結会計年度末に比べ341百万円減少し、1,659百万円となりました。
主な増減要因は、株式会社井口産交子会社化に伴う長期未払金の増加54百万円、約定返済による長期借入金の減少401百万円でありです。なお、当第2四半期連結会計期間末の借入金残高は、前連結会計年度末に比べ66百万円増加し、6,823百万円となっております。

(単位:百万円)

科 目	前連結 会計年度	当第2四半期 連結会計期間
	2019年3月31日現在	2019年9月30日現在
(負債の部)		
流動負債	10,475	※3 10,827
支払手形及び買掛金	2,795	3,124
短期借入金	5,048	5,516
リース債務	46	51
未払法人税等	268	144
賞与引当金	297	421
役員賞与引当金	46	22
その他	1,972	1,546
固定負債	2,001	※4 1,659
長期借入金	1,707	1,306
長期未払金	125	180
リース債務	75	84
退職給付に係る負債	36	8
資産除去債務	53	53
繰延税金負債	—	24
その他	1	1
負債合計	12,476	12,487
(純資産の部)		
株主資本	12,006	11,954
資本金	1,102	1,102
資本剰余金	1,098	1,098
利益剰余金	9,870	9,826
自己株式	△ 64	△ 73
その他の包括利益累計額	409	328
その他有価証券評価差額金	258	213
繰延ヘッジ損益	△ 1	△ 1
為替換算調整勘定	152	116
純資産合計	12,416	12,282
負債純資産合計	24,893	24,769

■ 第2四半期 連結損益計算書

(単位:百万円)

科 目	前第2四半期 連結累計期間	当第2四半期 連結累計期間
	2018年4月1日～ 2018年9月30日	2019年4月1日～ 2019年9月30日
売上高	21,699	21,958
売上原価	15,885	16,147
売上総利益	5,814	5,811
販売費及び一般管理費	5,399	5,659
営業利益	414	※5 151
営業外収益	209	91
営業外費用	24	94
経常利益	599	149
特別利益	—	3
特別損失	10	2
税金等調整前四半期純利益	589	150
法人税等	179	80
四半期純利益	410	70
親会社株主に帰属する四半期純利益	410	※6 70

※5 鶏卵や椎茸などの当社主要原材料価格が安定して推移したことに加え、省エネ活動や、生産技術力の向上による歩留まり率の改善などの原価低減努力による製造原価率の低下はありましたが、人件費や連結子会社取得に伴う固定費の増加に加え、ごぼう茶の広告宣伝、営業拠点の整備など、次期成長拡大に繋がる戦略的経費の計上を行ったことにより、営業利益は151百万円(前年同四半期比63.3%減少)となりました。

※6 デリバティブの時価評価損などの計上により、経常利益は149百万円(前年同四半期比75.1%減少)となり、さらに特別損失、法人税等を計上した結果、最終的な親会社株主に帰属する四半期純利益は、70百万円(同82.9%減少)となりました。

■ 第2四半期 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科 目	前第2四半期 連結累計期間	当第2四半期 連結累計期間
	2018年4月1日～ 2018年9月30日	2019年4月1日～ 2019年9月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,136	※7 1,478
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 924	※8 △ 415
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 280	※9 △ 719
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△ 78	332
現金及び現金同等物の期首残高	1,455	1,444
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,377	1,776

※7 営業活動の結果得られた資金は、1,478百万円となりました。これは、売上債権・たな卸資産・仕入債務を合計した運転資本面での資金獲得1,414百万円、減価償却費544百万円、税金等調整前四半期純利益150百万円、法人税等の支払額221百万円が主な内容となっております。

※8 投資活動の結果使用した資金は、415百万円となりました。これは、営業拠点の移転開設、生産設備の増強投資、メンテナンス投資が主な内容となっております。

※9 財務活動の結果使用した資金は、719百万円となりました。これは長期借入金の返済による支出555百万円、配当金の支払額114百万円が主な内容となっております。

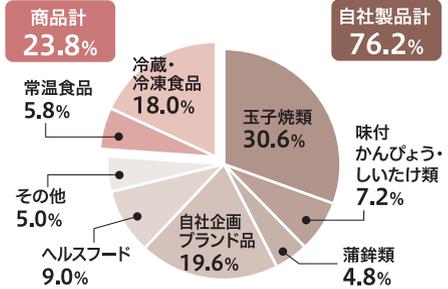
注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結業績の推移

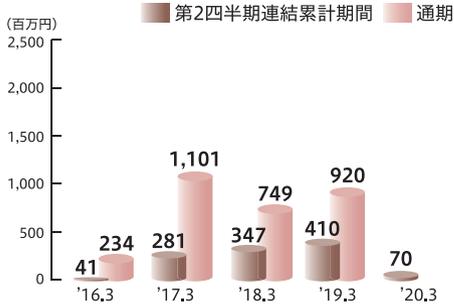
売上高



売上構成比 ('20年3月期 第2四半期連結累計期間)



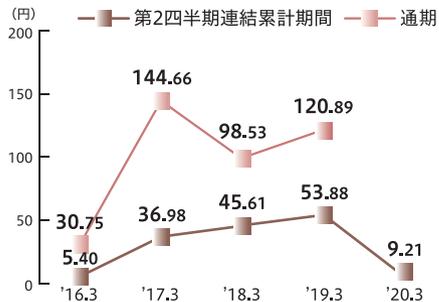
親会社株主に帰属する当期(四半期)純利益



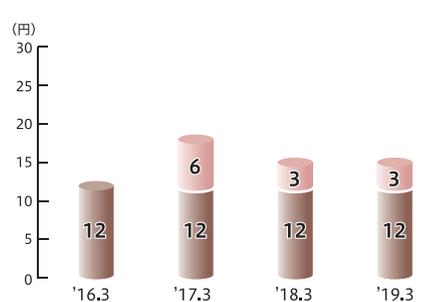
純資産・総資産



1株当たり当期(四半期)純利益



1株当たり配当金



注) 金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

株価・出来高の推移 ※東証2部市場

証券コード：2907



日経平均株価とあじかん株価の推移の比較



IR Information

株主メモ

- 事業年度 4月1日から翌年3月31日まで
- 定時株主総会 毎年6月
- 基準日 (定時株主総会) 3月31日
(期末配当) 3月31日
(中間配当) 9月30日(当期中間配当は未実施)
- 株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関
- 同 連 絡 先 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
電話 0120-094-777(通話料無料)
- 上場証券取引所 東証2部
- 公告の方法 電子公告
(公告掲載URL) <https://www.ahjikan.co.jp/>
※やむを得ない事由により、電子公告ができない場合は、
日本経済新聞に掲載する方法で行います。

【ご注意】

1. 株主さまの住所変更など各種お手続きにつきましては、口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店でも、お取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店で、お支払いいたします。

会社概要

商 号 株式会社あじかん (AHJIKAN CO.,LTD.)
 設立年月日 1965年3月19日(創業1962年)
 主要な事業内容 鶏卵加工製品・野菜加工製品・水産練製品・その他食品の
 製造、販売、および卸売、農産物の生産、販売



- 小誌についてのご意見は『膳』P.18のお便りコーナーまでお寄せください。●